

北海道教育大学「南ユタ大学短期英語プログラム」帰国報告書

函館校 地域協働専攻国際協働グループ 3年 大川英美佳(c25066of@stu.hokkyodai.ac.jp)

1. はじめに

今回私がこのプログラムに参加したきっかけは、「英語という言語でしか英語を母語とする他者とのコミュニケーションが取れない環境に置かれた場合、英会話が得意ではないノンネイティブ英語話者の英語スピーキング能力が向上しうるのか」という、長年抱いていた疑問について身をもって検証してみたいと思ったからでした。結果として、スピーキング能力に関する技術的な部分が向上したかはっきりと分かりませんが、英語を積極的に話そうとするマインドの部分は明らかに向上したと感じました。

2. 準備

プログラム実施及び参加が決定してからは、新千歳空港から出国する当日までに提出する書類や資金、着替えをはじめとする荷物などそろえなければならないものが本当に多くて、書類や資金はアナウンスされてから提出までの期限が短かったりして特に準備が大変でした。私は海外に行くのが2回目だったので、手荷物や機内への持ち込み物についてや日本出国からアメリカ入国までの流れはなんとなく分かってはいたので大丈夫だったのですが、海外に行くのが初めての人は出国までの準備期間に不安なことは全て調べたり詳しい人に聞いたりして、不安要素は取り除けるぶん取り除いておくべきです。

また、服装に関しては、日中や屋外は半袖で過ごせるような、大学構内をはじめとする屋内や夜は冷えるので長袖が適している気候だったので、3~4日分を用意して上手く着回しできるように準備しておくのが良いかと思います。洗濯についても頻度はホームステイ先によるとは思いますが、お願いすればその都度対応してくれるので心配しなくても大丈夫です。



Bryce Canyon

SUU 学内にて教育大学生と



3. 南ユタ大学 (SUU)

平日は 9 時から 12 時まで ESL という英語で行われる授業で、座学よりもゲームをやったりペアワークをやったりが多く、最後には日本の国立公園とユタ州の国立公園を比較するプレゼンテーションを行いました。全て英語だったので、先生が私たちに何をやらせたいのか分からなくて時折大変に思いました。お昼休みを挟んで午後は 17 時までなんらかのアクティビティをほぼ毎日行いました。その中でもネイティブアメリカンの方々に日本の伝統文化を紹介するプレゼンテーションと、大学付近にある小学校に行って小学生に対する日本文化紹介のプレゼンテーションをするのは 3 つのグループに分かれて行くに際して、それぞれホームステイ先が異なり、毎日帰るまでスケジュールが詰め込まれている中で話し合っってプレゼン内容を決めるのはとても大変でした。



↑夕食たち→



4. ホームステイ先

私は同じ函館校の 2 年の女子学生と 2 人で Howaed 家にお世話になりました。家は大学から車で 15~20 分ほどの距離にある郊外で、家族は母 Renee と父 Kevin、3 人の娘と息子、Penny という一匹の小型犬でした。毎日朝・昼・夜と食事をママが作ってくれて、授業がある平日はサンドイッチなどのランチを朝食とともに作って持たせてくれて、登下校の送り迎えをいつもしてくれました。家族みんながスポーツ好きで特にフットボールが好きで、夕食を食べながらテレビで観戦したり、実際にフットボールの試合を観戦しに行ったりもしました。休日や夕食後は家で映画を見たりと外出するというよりは家で家族みんな仲良くのんびり過ごすことが多かったです。

5. 最後に

私はもともと内向的で日本にいるときもあまり多くの人とは関わらずに過ごしてきました。しかし、アメリカではホストファミリーはもちろん、先生も他の学生もすべて、壁など感じもせずにとんどん私に話しかけてきました。最初は馴れ馴れしいと少し嫌悪感を感じ

ましたが、プログラムが終わるころにはそんなものはどこへやらといった感じで、日本に戻ってきてもアメリカで出会った人々とは連絡を取り続けているし、一緒にプログラムに参加した学生とも交流を続けているし、内向的な性格はガラッと変わったかのようです。

「〇〇せざる負えない環境下に置かれた時、人は変わる」ということを強く思いました。

他人とコミュニケーションを取ることが苦手な方、英語技能、特にスピーキング能力を上げたい方、どんな人でもこのプログラムに参加するなんらかの意義があります。そして、このプログラム終了後には自分の中の何かが絶対に変わります。この報告書を読んでいる人が南ユタ大学短期英語プログラムにぜひ参加してくれることを願います。



ホストファミリーと一緒に